

会員のひろば

題字：長塩三枝子

◇「育ちと学び」55号p14の「若

者のひろば」にあった内容ですが、感動しました。「私にとって笑顔は、幸せを呼ぶ魔法です。それを教えてくれた今までの環境、人々すべてに感謝します。」とてもすばらしい言葉で、たくさんの人が勇気づけられるメッセージだと思います。このきびしい社会の中で、力づけられるメッセージの大切さを感じました。

ありがとうございます。

ホームページトップ画面の「まなぶつくるつなぐ」という言葉と空の写真がさわやかです。さだと思います。

フォーラムの年会費3000円を赤ではなく青色の振込用紙(手数料は振り込み人が負担)で納入しました。

(高崎市 二口 孝絵)

◇高校生や卒業生(伊商、清明、前商、太フシ)の活動の詳細な記事が読み応えありました。ふだんは新聞で各学校の行事と生徒の一言感想に触れる程度なので、深い記事が読めるのはフォーラムだけです。連載コラムの「音楽療法」を楽しみにしています。知り合いに、興味がある

人がいるので。

ホームページは「育ちと学び」のバックナンバーがPDFで見られるのがよいです。

夜間定時に異動になり、生活サイクルを変えるのに試行錯誤しています。健康のために徒歩と電車の通勤にチャレンジ中ですが、これから暑くなる季節、はたして続くのやら？

(伊勢崎市 齋藤 理一郎)

◇「すなっぶ」、「近現代史ゼミ報告」は、たまたま自分も参加していたものだったので、その時のことを思い出しながら、こうして記録されたものがあってありがたいと思いました。と同時に、高校生の発表は、現役の若い先生たちにももっと参加して欲しかったと改めて思ったのでした。もししたら参加してくれるでしょう。部活指導が忙しい？せめて休日にはプライベートタイムにしたい？マスコミ(新聞やTV、ラジオ)やSNSで宣伝するといいいのかな。

(前橋市 田口 有理)

◇退職して6年がたちました。高校生の活動が紹介されているのを読むと教員時代を思い出します。現在の学校現場の情報は貴重です。

教員の多忙が知られるようになりました。組合の役員として文科省との交渉に参加していました。「現場の人員を増やして欲しい」という

要求には「財務が…」の連発でした。財務省の壁は厚いのを実感しました。教育の崩壊が進んでいるように思えてなりません。

(邑楽町 吉田 秀司)

◇読みごたえのある記事多数

・ Chat GPT について

・ 子どもたちが主体的に考える事の大切さ

(ぐんま教育のつどい)

・ 「自分たちで足を運び話を聞くことで戦争のイメージが変わった

・ フクイチから12年 現状

・ 近代史の中の女性像 民権ばあさん楠瀬

喜多 朝ドラに

・ 若者のひろば 生活体験発表

いつもお世話になっています。

このたび富岡市議選では2期目当選となりました。より一層、市民の苦難軽減のために努力する覚悟です。

(富岡市 田村 浩壽)

◇それぞれ興味深く読ませていただきました。特に前商生の「地域の戦争体験を後世に残す」の研究発表は心に残りました。現在の高校生が戦争を学び、身近に感じてくれていることに希望を持ちました。

(高崎市 大塚 栄子)

◇「トピック」「連載コラム」に関心を持ちました。私の拙い文章を5回も連載してもらい、ありがとうございます。（「授業と生徒を語る」編集部注）体調は変わらず不安定です。

（前橋市 渡辺 良光）

◇いずれも読みごたえのある内容でした。フォラムの存在の重要性を再認識いたします。

（伊勢崎市 加藤 彰男）

◇「共同研究者の部屋」や「近現代史ゼミの報告」に関心をもって呼んでいます。倉林先生のカット（漫画）がすばらしいですね。

（高崎市 菊池 実）

◇「近現代史ゼミ」でお世話になっております。

4月14日、車を手放したので今後参加ができません。よろしく願います。大変勉強になりました。

（高崎市 小河原 健）

◇各記事の文章はよくまとまっています。しかし各校の文は少し美化されているのではないかと思います。内藤さんの文（「私の本棚・暁の宇品」編集部注）がよくまとまっていると思いました。

（高崎市 市塚 守）

◇ホームページはこれから読んだり視聴したりしたいと思います。上武大学で「特別支援教育論」の授業を担当して4年目になります。

（前橋市 清水 秀俊）

◇「音楽療法」について、もっと深く学びたいですね。私は楽器使用の昔話など使ってカウンセラーをしています。

5月より再入院のため総会には欠席ですが皆様の熱意を感じております。

（前橋市 佐藤 弥生）

◇「ぐんま教育のつどい」の取材、高教組定期大会へのオブザーバー参加、ありがとうございます。

（伊勢崎市 萩原 正人）

◇5月の火曜日の午後、「ぐんま教育文化フォラム」で電話相談当番をしていたら電話が鳴りました。「久しぶりの相談電話がきたかな」と思って受話器をとると、「フォラムのホームページでみた『源氏物語に親しむ会』は今でも開催されているのでしょうか」というおたすねでした。東京に住んでいるという女性からでした。電話番号を聞いておいて、講師の針谷順子さん（フォラム会員）に確認してから電話を入れて「6月10日に開催する」ことを伝えま

した。するとその女性は「高校在学中に針谷先生に教わったんです。源氏物語を勉強しようと思って検索したら先生の講座がヒットしたんです」と嬉しそうに言いながら電話を切りました。私もなんだかとてもうれしくなりました。電話を切ったあとで針谷さんに電話し、電話の主の様子を伝え、「すぐに電話してやってください」と伝えました。私たちのホームページが仲立ちして生まれたちょっとしたい感じのハプニングでした。懐かしい人同士をつなぐツールになったわけですから。その後お二人は再会し、そのことがニュースに登場することになりましたから、私たちにとっては二重の喜びをもたらす電話になりました。

（高崎市 倉林 順一）

◇紙面には、いつも静かなる気合のようなものが漲っていて元気づけられます。

最近の読書から——ある人が浜辺でヒトデを拾って海に返していた。・・・中略・・・そんなの無駄だろ。数が多すぎる」と、見ていた者が言った。すると彼はにっこり笑って身を屈め、もう一つヒトデを拾って海に投げ返して言った。「でもね、このヒトデにとっては大きな違いだろうね」

岸見一郎「アドラー心理学入門」ベスト新書、

（高崎市 金井 秀行）